



片柳中学校だより

# 片柳

第13号 令和7年3月26日発行  
さいたま市立片柳中学校  
さいたま市見沼区大字御蔵551  
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

## 教師となって43年その4 生徒指導の質的転換

校長 加藤 明良

先日は、第78回卒業証書授与式が無事挙行され、全校生徒が一つになって卒業を祝うことができました。ご列席いただいた来賓、地域、保護者の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、教師となって43年その4最終号です。今回は、生徒指導について述べたいと思います。今から50年以上前、私が中学生の頃から、非行問題行動が全国的に話題になっていきました。荒れる中学校です。自転車が廊下を走る。改造バイクに乗り爆音を響かせ、校庭を走り回る。タバコやシンナーの常習、恐喝などがどの学校でも起きていました。片柳中も例外に漏れず、新任の私は生徒になめられないように、毅然とした態度で臨み荒れる生徒たちに立ち向かいました。お陰様で、いろいろな事は起きましたが、生徒との関係性をそこまで損なうことなく、卒業を迎えることができたと思っています。(私が一方的に思っているだけかもしれませんが)むしろ、異動した2校目の学校が片柳中以上に荒れていて、一時は教師を辞めようと真剣に考えたこともありました。家出した生徒を深夜まで探して回ったり、ある生徒の自宅に非行少年が溜り、深夜まで怒鳴りあったりと、まさに学園ドラマの世界を経験しました。

中学校教師として非行に走る生徒に対峙し、その心を開かせ更生させていくことが求められていました。そのためには、細かな校則を定め、それを守らせる強い指導、反発する生徒を力づくで抑える指導、一斉に同じことを目的に全ての生徒を一つの方向に向けることが求められました。こんな指導を20年以上当たり前のように行ってきましたが、ここ十数年の間に非行少年少女が激減してしまいました。なぜでしょうか。親が子どもにあれこれ干渉しなくなった(ソフトになった)。子どもがやりたいこと、ゲームや漫画など自由に行える環境が整った。社会が豊かになった。いろいろな原因が考えられます。同時に、社会的にも子どもの人権や権利を尊重し守る意識が高まり、学校での一律の強い指導への批判も強くなってきました。やってしまったことを怒るのではなく、なぜやってしまったのか、その時どんな気持ちだったのか、これからどうしたらよいのか等、生徒の気持ちに寄り添った指導が求められています。一方でSNSへの書き込みや暴言などいじめや自死につながる深刻な事態も増え、表面的に見えにくくなっています。生徒指導の質的転換が今こそ求められています。

では、昔の生徒はなぜあれだけ大人に反発したのか、おそらく保護者の世代、40代～50代の方、中学校時代を思い起こしてみてください。当時の生徒たちは今の生徒には感じられないエネルギーのようなものを持っていたように感じます。振り返ってみて、当時の指導について反省するところもありますが、生徒の気持ちを少しでも汲み取ろうと努力してきたつもりです。生徒会での校則見直し、生徒会が中心になり片中祭として体育祭、文化祭3日間の開催、京都・奈良班別自由行動、2泊3日スキー卒業旅行、陸上部全員で応援に行った全国大会等、生徒と一緒に学級、生徒会、学校行事、部活動に取り組めたことが一番の財産です。そして、教職生活の最初と最後を片柳中に勤めることができたことも大きな喜びです。保護者、地域の方々に深く感謝し、改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。